

様々な雛人形を楽しんで♪ がいばら雛めぐりを開催

3月21日から31日まで、柏原地域の城下町周辺で、がいばら雛めぐりが行われました。今年には柏原藩陣屋跡など16カ所で、江戸時代から平成のものまで、様々な雛人形が展示されました。

2年目の今年も、「城下町の名店食べ歩きツアー」やクッキー・小物づくりのイベントも行われ、約3,500人の来場者が「雛づくし」の城下町を楽しみました。



各会場に飾られた雛人形を見て回る来場者

新規就農をめざす 農（みのり）の学校が開校

4月8日、有機農業の栽培技術や農業経営などを1年間で学ぶ全日制の「丹波市立農（みのり）の学校」が開校しました。第1期生は15人で、市島町上田の研修施設を中心に、農地での実践研修や経営講習・ICT活用技術などを学びます。

入学式では入学生が1人ずつ「農業の楽しい部分を発信したい」「農業で食べていけるように学びたい」など、就農への意欲を語りました。



農の学校に入学した第1期生の皆さん

青少年の感受性を育むために 児童書を寄贈



目録を手渡す労働組合役員のみなさん（写真中央・右）

3月28日、パナソニックライティングシステムズ労働組合春日支部が、春日図書館に児童書28冊を寄贈しました。同組合は、平成21年から毎年1回図書館に児童書を寄贈し、今回で寄贈総冊数は416冊（総額約110万円相当）になります。

労働組合の前川紘一副支部執行委員長は、「本を読んだ地域の子どもたちが感受性を育み、多様性のある人に成長してくれたら」と話しました。

豪雨災害を伝え、防災学習の拠点となる 復興砂防公園が開園



記念植樹を行う関係者たち

平成26年8月に発生した丹波市豪雨災害の経験と教訓を後世につなぎ、防災学習の拠点とするために整備を進めてきた復興砂防公園が完成し、3月21日に完成式典が行われました。

式に出席した前山地区の芦田翔希（しやうき）さんは、「防災教育を通して前山の子どもたちが防災・復興を学び、大人になってもこの災害を知らない世代の人にも伝えて行きたい」と話しました。